

★ NYを拠点に活躍する注目のピアニスト/アコーディオニスト★ ベン・ローゼンブルム【Ben Rosenblum】



photo by Kazuo Goshima

♪ 現在のプロジェクトや活動について聞かせて下さい。

ピアニスト、アコーディオニスト、作曲家としてNYを拠点に活動しています。現在の主な活動内容は僕自身のトリオとセクステット（Nebula Project）とソロ、その他のバンドと国際ツアーやレコーディングをしています。専門はジャズですが、ブラジル、バルカン、インド、カレズマ、ゲーム音楽など色々なグローバルな曲の専門家たちと一緒に演奏しています。

♪ 2023年にリリースされた現時点での最新アルバム『ア・サウザンド・ペプルス』はサウンドも素晴らしく、素敵な作品ですが、この作品のコンセプトや聴きどころについて聞かせて下さい。

コロナの時に作曲とアレンジをして、みんなが持っている懐かしい気持ちや記憶を音楽を通してコミュニケーションしたかったんです。アルバムのタイトルは若い時によく聞いた昔話から決めました。アルバムの2曲目、「Bulgares」は伝統的なブルガリアの曲の影響から、10曲目の「Song of the Sabia」はブラジルのフォホー（ダンスミュージック）から、全部の曲は物語みたいに表現したいと思い作曲していますが、そんな思いを感じながら聴いてもらえたら嬉しいです。

♪ ピアニストでありアコーディオニストとしても活躍されていますが、それぞれピアノとアコーディオンとの出会いについて聞かせて下さい。

僕の人生でずっとピアノは一緒に、本格的に習い始めたのが5歳ぐらいでした。小さいころは人とコミュニケーションするのが苦手で、ピアノが僕のコミュニケーションツールの1つになってくれました。アコーディオンは高校生の時に兄がプレゼントしてくれました。演奏し始めたのは大学生の頃、僕のクオアチアの友人がアコーディオン奏者を探していて、僕にオファーしてくれたのがきっかけでした。その

米国NY出身。NYを拠点にピアニスト/アコーディオニスト/作曲家として、ソロ、トリオ、セクステット（Nebula Project）でも活躍するベン・ローゼンブルム。これまで20以上の音楽ジャンル、15カ国以上で演奏を行い、リッキー・リー・ジョーンズやキラン・アールワリアとのツアーにも参加。

ジャズにとどまらず、様々な伝統音楽への興味と探究心と共に、独自の世界観を表現し続けている逸材。また、奥様は日本人で、日本も大好きな親日家でもある。2023年に最新アルバム『ア・サウザンド・ペプルス』をリリースし、更なるグローバルな活躍が期待されるベン・ローゼンブルムとのインタビューが実現！ 来日公演にも期待！

【2024年5月取材・文：加瀬正之】

頃はアコーディオンを弾く経験は少なかったですが、今はピアノと同じぐらい弾く機会があり大切な楽器です。

♪ 音楽との出会い、また、ジャズとの出会いについて聞かせて下さい。

音楽との出会いはクラシックでしたが、僕の一番好きなことは自由即興でした。ジャズファンだった母がジャズ即興の存在を教えてくれ、初めてのオススメはキース・ジャレットのCDでした。若い頃から素晴らしいピアノの先生（フランク・キンブロー、ブルース・パース）に習うことができ、伝説的なジャズミュージシャン（カーティス・ランディとウィナード・ハーパー）と一緒に弾ける機会があり、NYに生まれ育ったことはすごくラッキーでした。

♪ ジャンルを問わず、強い影響を受けたピアニストを3人挙げて下さい。

1. ウィントン・ケリー（スウィングフィールと八分音符感）。
2. ハンク・ジョーンズ（特に歌手との伴奏）
3. チック・コリア（ラテンジャズと他のワールドミュージックを作品に取り入れているところが気に入っています）

ジャズ以外では、クラシック音楽ではグレン・グールド、ブラジル音楽ではエグベルト・ジスモンチ

♪ 強い影響を受けたジャズのアルバムを3枚挙げて下さい。

1. Abbey Lincoln and Hank Jones（アビー・リンカーンとハンク・ジョーンズ）の「When There Is Love」
2. Kenny Barron（ケニー・バロン）の「Live at Maybeck Recital Hall」
3. Art Blakey and the Jazz Messengers（アート・ブレイキー&ジャズ・メッセンジャーズ）の「1961album」
※日本では「アラモード」というタイトルのアルバム



photo by Vivian Wang

♪ あなたの楽器（アコーディオン）について聞かせて下さい。

私はアコーディオンを2台持っています。どちらも1960年代にイタリアで製造されたものです。1台はScandalli製、もう1台はSonola製です。Scandalliは、Ivan Milevというブルガリアの伝統音楽の専門家が長年演奏していました。私はAccordion Galleryという店で彼の友人から購入しました。どちらも120ベース、LMMH構成です。Scandalliはコンサートチューニングで、Sonolaは中音域に少し「きらめき」を与えるためにわずかにミュゼットチューニングされています。

♪ 作曲はいつどのようにされているのですか？

僕の作曲はたいてい他の場所（最近ではクロアチアとドイツ）でピアノがある場所に篋ったり、数日スケジュールを空けておく必要があります。時々日常生活の中で受けたインスピレーションをメモしたもの、作曲したものやイメージしてきたもの、影響を受けたもの全てをそこで出すことができます。作曲で最初のインスピレーションがあったら、その後どんどんアレンジしていき、どの音楽家と弾きたいかを考えていきます。

♪ ピアノとアコーディオンを演奏する上で最も大切なことは何ですか？

僕は演奏を聴きに行き感動する経験がたくさんあります。だから聴いてくれる人の心に共鳴できるような演奏者になることが目標です。僕の妻は僕たちが会出う前に、初めて僕の演奏を聴いて感動しメッセージをくれました。音楽は人と人を繋いでくれるパワーがあると感じています。

♪ 奥様は日本人の方とお聞きしており、5月8日は奥様の誕生日だったようですが、お誕生日おめでとうございます！ 差し支えなければ、奥様との出会い、日本のイメージについて聞かせて下さい。

ありがとうございます。妻との出会いは6年前に僕が日本へ行った時に僕の演奏を聴きに来てくれました。その日5/8は彼女の誕生日でした。日本の食べ物が一番おいしいと思います！ 日本人のお客さまはとても温かく、音楽に尊敬を持って聴いてくれました。また何回も日本に行きたいです！

♪ これまで度々日本で演奏されていますが、お気に入りの日本の場所や食べ物、音楽などはありますか？

日本には僕の友だちの音楽家がたくさんいます。NYから来たPatrick Bartley（パトリック・バートリー／トランペット）

ト）、大友孝彰（ピアノ）、日本で出会った木村紘（ドラム）、渡辺由布子さん（箏）。東京、京都、札幌、福岡たくさんの都市を訪れ全部好きでした。最近、神奈川県箱根に行き温泉がすごく良かったです。横浜ラーメンミュージアム、横須賀の讃岐うどんの唐揚げカレーうどんがとても大好きです。

♪ 音楽以外の趣味について聞かせて下さい。

趣味はテニス・料理・お菓子作り。妻と遠距離恋愛中にオンラインで色々な国の料理を一緒に作りました。

♪ 今年から来年2025年にかけて、来日公演や新作のリリースをはじめ、特別な計画はありますか？

ソロピアノアルバムとソロアコーディオンアルバムを今年の終わりにリリース予定です。そして、すでにレコーディング済みのネビュラプロジェクトのアルバムをリリースするのが楽しみです！ まだ未定ですが、日本で演奏することも楽しみにしています！ 詳細は僕のWebサイトをご覧ください。

♪ 目標や夢は何ですか？

まだアコーディオンはジャズではあまり使わない楽器なので、ジャズの分野でも人気がある楽器になるように、広めていきたいと考えています。色々なジャンルの音楽や楽器の演奏家たちとたくさんコラボしていきたいです。

♪ あなたにとってピアノとは？

トミー・フラナガンがオーケストラを聴きながら、ピアノでさまざまなパートを真似して、（例えば）「フレンチホルンのラインで始まるよ」と言って曲を始めるという美しいビデオがあります。ピアノはどんなものにもなり得るので、この楽器で何でも表現できると感じています。ピアノは僕にとって1つの楽器の中にオーケストラが入っているような特別な存在です。

♪ 最後に、The Walker'sの読者と日本のファンにメッセージをお願いします。

日本は世界で大好きな場所なので何回も行きたいです！ 演奏で日本のみんなに会えることを楽しみにしています！ 加瀬さん、この機会をいただきありがとうございました。

【ベン・ローゼンブルーム オフィシャル・ウェブサイト】

<https://www.benrosenblummusic.com/>

【ベン・ローゼンブルーム インスタグラム】

@benrosenblummusic



ア・サウザンド・ペブルス
ベン・ローゼンブルーム

2023.10.3 発売

© Ben Rosenblum 2023

(Import CD)

ベン・ローゼンブルームの4枚目のアルバム！

【P11 Jazz New Disc でも紹介！】